

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

持続性抗ヒスタミン剤

日本薬局方 メキタジン錠

メキタジン錠 3mg 「ツルハラ」

Mequitazine Tablets 3mg 「TSURUHARA」

剤 形	錠剤
製 剤 の 規 制 区 分	該当しない
規 格 ・ 含 量	1錠中メキタジン 3mg 含有
一 般 名	和名：メキタジン 洋名：Mequitazine
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2008 年 2 月 28 日（販売名変更による） 薬価基準収載年月日：2008 年 6 月 20 日（販売名変更による） 発売年月日：1992 年 7 月 10 日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：鶴原製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問 い 合 わ せ 窓 口	鶴原製薬株式会社 医薬情報部 TEL：072-761-1456（代表） FAX：072-760-5252 医療関係者向けホームページ http://www.tsuruhara-seiyaku.co.jp/medical/member/

本 IF は 2019 年 12 月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.info.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要

—日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。

医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領 2008 が策定された。

IF記載要領 2008 では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独) 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。た

だし、添付文書で赤字・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IFの作成]

①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。

②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。

③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。

④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。

⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF記載要領 2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

①「IF記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。

②上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。

③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)....	19
1. 開発の経緯	1	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	19
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	19
II. 名称に関する項目	2	5. 慎重投与内容とその理由	19
1. 販売名	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	19
2. 一般名	2	7. 相互作用	19
3. 構造式又は示性式	2	8. 副作用	20
4. 分子式及び分子量	2	9. 高齢者への投与	21
5. 化学名(命名法)	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	21
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	11. 小児等への投与	21
7. CAS登録番号	2	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	21
III. 有効成分に関する項目	3	13. 過量投与	21
1. 物理化学的性質	3	14. 適用上の注意	21
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	15. その他の注意	21
3. 有効成分の確認試験法	3	16. その他	21
4. 有効成分の定量法	3	IX. 非臨床試験に関する項目	22
IV. 製剤に関する項目	4	1. 薬理試験	22
1. 剤形	4	2. 毒性試験	22
2. 製剤の組成	4	X. 管理的事項に関する項目	23
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	1. 規制区分	23
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	2. 有効期間又は使用期限	23
5. 調製法及び溶解後の安定性	10	3. 貯法・保存条件	23
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	10	4. 薬剤取扱い上の注意点	23
7. 溶出性	10	5. 承認条件等	23
8. 生物学的試験法	11	6. 包装	23
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	11	7. 容器の材質	23
10. 製剤中の有効成分の定量法	11	8. 同一成分・同効薬	23
11. 力価	11	9. 国際誕生年月日	23
12. 混入する可能性のある夾雑物	12	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	24
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	12	11. 薬価基準収載年月日	24
14. その他	12	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	24
V. 治療に関する項目	13	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	24
1. 効能又は効果	13	14. 再審査期間	24
2. 用法及び用量	13	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	24
3. 臨床成績	13	16. 各種コード	24
VI. 薬効薬理に関する項目	14	17. 診療報酬上の注意	24
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	14	X I. 文献	25
2. 薬理作用	14	1. 引用文献	25
VII. 薬物動態に関する項目	15	2. その他の参考文献	25
1. 血中濃度の推移・測定法	15	X II. 参考資料	25
2. 薬物速度論的パラメータ	17	1. 主な外国での発売状況	25
3. 吸収	17	2. 海外における臨床支援情報	25
4. 分布	17	X III. 備考	25
5. 代謝	17	その他の関連資料	25
6. 排泄	18		
7. トランスポーターに関する情報	18		
8. 透析等による除去率	18		
VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	19		
1. 警告内容とその理由	19		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

メキタジンはフランスで開発され、ヒスタミンをはじめ各種のケミカルメディエーターに対して拮抗作用を有する。その作用は他の抗ヒスタミン剤に比し持続性で、また、中枢に対する作用は少ない。

Ⅱ．名称に関する項目

1. 販売名

(1)和名 :メキタジン錠 3mg 「ツルハラ」

(2)洋名 :Mequitazine Tablets 3mg 「TSURUHARA」

(3)名称の由来 :

一般名＋剤形＋規格(含量)＋「ツルハラ」

〔「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」

(平成 17 年 9 月 22 日 薬食審査発第 0922001 号)に基づく〕

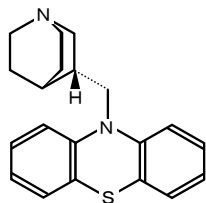
2. 一般名

(1)和名(命名法) :メキタジン (JAN)

(2)洋名(命名法) :Mequitazine (JAN,INN)

(3)ステム :なし

3. 構造式又は示性式



及び鏡像異性体

4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{20}H_{22}N_2S$

分子量 : 322.47

5. 化学名(命名法)

10-[(3*RS*)-1-Azabicyclo[2.2.2]oct-3-ylmethyl]-10*H*-phenothiazine

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

7. CAS登録番号

29216-28-2

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

本品は白色の結晶又は結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

本品はメタノール又は酢酸(100)に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

融 点：146～150℃

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

本品のメタノール溶液（1→50）は旋光性を示さない。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

本品は光によって徐々に着色する。

3. 有効成分の確認試験法

日局「メキタジン」の確認試験による。

4. 有効成分の定量法

日局「メキタジン」の定量法による。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

白色で割線を有する素錠で、識別記号は TSU752 である。

			直径：約 6.0mm 厚さ：約 2.5mm 質量：約 90mg
---	---	---	---------------------------------------

(2) 製剤の物性

製剤均一性：日局一般試験法 製剤均一性試験法の項により質量偏差試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日本薬局方外医薬品規格第3部 溶出性の項により試験を行うとき、規格に適合する。(溶出試験第2液、45分：70%以上)

(3) 識別コード

TSU752

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

1錠中メキタジン 3mg

(2) 添加物

D-マンニトール、トウモロコシデンプン、カルメロースカルシウム、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム

(3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当資料なし

4. 製剤の各種条件下における安定性

試験条件及び保管

試験条件及び保管	試験期間	保存包装	試験項目	ロット
室温 13～33℃ 湿度 27～98%RH	6 ヶ月	バラ包装：セロニウム袋に入れブリキ缶に入れる PTP包装：PTP包装しセロニウム袋に入れ紙箱に入れる	(1)性 状 (2)確認試験 (3)重量偏差試験 (4)崩壊試験 (5)定量試験 (6)分解物試験	001 002 003
加速試験 40℃75%RH				
苛酷試験 曝光下 2000 ルクス照射	1 ヶ月	錠剤をシャーレに入れる		

試験条件及び保管	試験期間	保存包装	試験項目	ロット
長期保存試験 室温	3 年	バラ包装：セロニウム袋に入れブリキ缶に入れる PTP包装：PTP包装しセロニウム袋に入れ紙箱に入れる	(1)性状 (2)硬度 (3)定量 (4)溶出	608 610 611

安定性に関する考察

性状：曝光 1 ヶ月でやや微褐色に変化した。

確認試験：いずれの条件においても規格に適合した

重量偏差試験：いずれの条件でもほとんど変化なく規格に適合した

崩壊試験：いずれの条件でも変化は認められなかった

定量試験：いずれの条件でも含量の低下は認められず安定であった

分解物試験：いずれの条件でも 1 スポットで分解物は認められなかった

硬度：規格に適合した

溶出：規格に適合した

結論

試験結果より本品は、光によって性状はやや微褐色に変化するが、定量等に低下は認められなかった。よってメキタジン錠 3mg 「ツルハラ」は遮光すれば室温 3 年間は安定な製剤であると確認された。貯法は「気密容器に入れ遮光・室温保存」とする。²⁾

メキタジン錠 3m g 「ツルハラ」の経時変化試験成績表

保存 条件	包装	保存 期間	ロット 番号	性状			確認試験			重量偏差試験			
				1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	
室温	製造時		001	白色割 線有の 素錠	白色割 線有の 素錠	白色割 線有の 素錠	(1)適 (2)適	(1)適 (2)適	(1)適 (2)適	平均重量 (mg) 最大偏差 (%) 91.3 91.5 92.4 -1.6～2.2 -2.1～1.7 -2.1～1.6			
			002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	90.6 -1.7～2.2	91.0 -2.0～2.3	90.5 -1.6～2.0	
			003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.1 -0.9～1.5	91.4 -0.9～2.1	91.2 -1.6～1.8	
	バラ包装		1 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			3 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			6 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上	92.1 -2.0～1.6	92.4 -1.7～2.0	91.6 -1.9～2.4
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.1 -2.0～1.7	90.8 -1.3～2.0	91.2 -2.0～2.5
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.6 -1.6～1.7	91.3 -2.1～1.2	91.0 -1.4～2.2
	P T P 包装		1 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			3 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			6 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.4 -1.8～2.3	91.7 -0.9～1.5	92.3 -2.0～1.6
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.0 -1.3～1.7	90.8 -1.8～2.0	90.6 -0.7～1.2
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.5 -1.5～2.4	91.3 -1.4～1.8	91.2 -2.0～2.0
				崩壊試験 (分)					定量 (%)				
				1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	平均			
	製造時		001	0.8～1.4	0.8～1.4	0.7～1.5	101.8	100.9	101.3	101.3			
			002	0.8～1.3	0.8～1.4	0.7～1.2	98.4	100.4	98.6	99.1			
			003	0.7～1.4	0.7～1.3	0.8～1.3	101.1	99.5	100.2	100.3			
	バラ包装		1 箇月	001	0.7～1.3	0.8～1.4	0.7～1.4	101.1	100.9	102.0	101.3		
				002	0.8～1.2	0.8～1.4	0.7～1.3	100.0	91.1	98.8	99.3		
				003	0.7～1.2	0.8～1.3	0.8～1.4	100.4	99.3	100.9	100.2		
			3 箇月	001	0.9～1.3	0.8～1.4	0.7～1.3	101.1	100.6	100.9	100.9		
				002	0.7～1.3	0.8～1.2	0.8～1.4	99.7	98.8	99.0	99.2		
				003	0.8～1.3	0.9～1.4	0.7～1.3	100.6	100.2	99.3	100.0		
			6 箇月	001	0.7～1.5	0.8～1.3	0.7～1.2	100.7	101.3	102.0	101.3		
				002	0.8～1.3	0.7～1.3	0.7～1.3	99.5	99.0	99.0	99.2		
				003	0.8～1.4	0.8～1.2	0.8～1.3	100.7	100.2	99.7	100.2		
	P T P 包装		1 箇月	001	0.7～1.3	0.9～1.3	0.8～1.2	101.8	101.5	100.9	101.4		
				002	0.9～1.4	0.7～1.2	0.8～1.4	99.1	99.9	99.0	99.3		
				003	0.8～1.3	0.8～1.2	0.7～1.2	100.6	100.9	99.7	100.4		
			3 箇月	001	0.7～1.5	0.8～1.4	0.9～1.3	100.7	101.5	101.1	101.1		
				002	0.8～1.2	0.9～1.3	0.8～1.2	99.3	98.6	99.1	99.0		
				003	0.7～1.4	0.8～1.3	0.8～1.3	100.6	99.5	99.9	100.0		
			6 箇月	001	0.9～1.3	0.8～1.2	0.8～1.3	101.1	101.3	100.7	101.0		
				002	0.8～1.3	0.7～1.4	0.8～1.2	99.0	99.1	98.6	98.9		
				003	0.8～1.4	0.9～1.3	0.9～1.4	99.5	100.6	99.9	100.0		

保存 条件	包装	保存 期間	ロット 番号	性状			確認試験			重量偏差試験			
				1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	
40℃75%RH	製造時		001	白色割 線有の 素錠	白色割 線有の 素錠	白色割 線有の 素錠	(1)適 (2)適	(1)適 (2)適	(1)適 (2)適	平均重量 (mg) 最大偏差 (%) 91.3 91.5 92.4 -1.6～2.2 -2.1～1.7 -2.1～1.6			
			002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	90.6 -1.7～2.2	91.0 -2.0～2.3	90.5 -1.6～2.0	
			003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.1 -0.9～1.5	91.4 -0.9～2.1	91.2 -1.6～1.8	
	バラ包装		1 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			3 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			6 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.6 -1.5～2.3	91.5 -1.8～2.0	92.1 -2.1～1.7
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	90.7 -1.7～2.2	91.0 -0.8～1.9	90.6 -1.3～2.3
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.5 -1.7～2.8	91.4 -2.0～1.5	91.1 -1.2～1.6
	P T P 包装		1 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			3 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			6 箇月	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.3 -1.7～2.3	91.6 -2.2～2.0	92.1 -2.0～1.9
				002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.2 -1.6～2.2	90.8 -0.8～1.9	91.0 -1.3～2.1
				003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.5 -1.7～2.2	91.8 -1.7～1.6	91.4 -2.2～2.4
				崩壊試験 (分)					定量 (%)				
				1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	平均			
	製造時		001	0.8～1.4	0.8～1.4	0.7～1.5	101.8	100.9	101.3	101.3			
			002	0.8～1.3	0.8～1.4	0.7～1.2	98.4	100.4	98.6	99.1			
			003	0.7～1.4	0.7～1.3	0.8～1.3	101.1	99.5	100.2	100.3			
	バラ包装		1 箇月	001	0.7～1.3	0.8～1.2	0.7～1.4	101.1	100.8	101.8	101.2		
				002	0.8～1.2	0.7～1.3	0.8～1.5	100.4	99.0	98.8	99.4		
				003	0.8～1.1	0.7～1.3	0.8～1.2	100.2	99.5	100.6	100.1		
			3 箇月	001	0.9～1.4	0.7～1.3	0.7～1.3	100.6	101.6	101.3	101.1		
				002	0.8～1.5	0.7～1.2	0.8～1.1	99.1	99.9	98.4	99.1		
				003	0.8～1.2	0.7～1.4	0.7～1.3	100.2	100.7	99.5	100.1		
			6 箇月	001	0.9～1.3	0.7～1.4	0.8～1.3	100.2	101.6	101.5	101.2		
				002	0.7～1.2	0.8～1.3	0.8～1.1	99.1	98.8	99.7	99.2		
				003	0.8～1.3	0.7～1.3	0.8～1.2	100.6	99.9	99.5	100.0		
	P T P 包装		1 箇月	001	0.7～1.4	0.9～1.3	0.8～1.2	100.9	101.3	101.5	101.2		
				002	0.7～1.5	0.8～1.3	0.7～1.4	99.1	99.3	99.0	99.1		
				003	0.9～1.3	0.8～1.5	0.8～1.2	99.9	100.9	99.5	100.1		
			3 箇月	001	0.6～1.3	0.8～1.4	0.7～1.4	101.1	101.5	100.4	101.0		
				002	0.8～1.2	0.7～1.3	0.8～1.4	99.1	98.6	99.0	98.9		
				003	0.7～1.3	0.8～1.4	0.8～1.5	100.0	100.6	100.2	100.3		
			6 箇月	001	0.9～1.3	0.7～1.2	0.7～1.4	101.3	100.6	101.1	101.0		
				002	0.6～1.2	0.8～1.3	0.8～1.3	99.8	99.3	99.1	99.1		
				003	0.8～1.4	0.9～1.2	0.7～1.3	99.7	100.6	99.8	100.0		

保存 条件	包装	保存 期間	ロット 番号	性状			確認試験			重量偏差試験		
				1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回
2000 ルクス照射	製造時		001	白色割 線有の 素錠	白色割 線有の 素錠	白色割 線有の 素錠	(1)適 (2)適	(1)適 (2)適	(1)適 (2)適	平均重量 (mg) 最大偏差 (%)		
										91.3 -1.6～2.2	91.5 -2.1～1.7	92.4 -2.1～1.6
			002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	90.6 -1.7～2.2	91.0 -2.0～2.3	90.5 -1.6～2.0
			003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.1 -0.9～1.5	91.4 -0.9～2.1	91.2 -1.6～1.8
	シャーレに入れる	2 週間	001	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			002	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
			003	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
		1 箇月	001	微褐色 の素錠	微褐色 の素錠	微褐色 の素錠	同上	同上	同上	91.1 -0.9～2.0	91.6 -1.7～1.9	92.0 -2.0～2.1
			002	同上	同上	同上	同上	同上	同上	90.5 -2.1～2.5	90.8 -1.5～1.7	91.2 -1.4～1.8
			003	同上	同上	同上	同上	同上	同上	91.4 -2.0～2.2	91.1 -1.8～2.3	91.3 -1.5～2.4
				崩壊試験 (分)					定量 (%)			
				1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	平均		
	製造時		001	0.8～1.4	0.8～1.4	0.7～1.5	101.8	100.9	101.3	101.3		
			002	0.8～1.3	0.8～1.4	0.7～1.2	98.4	100.4	98.6	99.1		
			003	0.7～1.4	0.7～1.3	0.8～1.3	101.1	99.5	100.2	100.3		
	シャーレに入れる	2 週間	001	0.8～1.3	0.8～1.2	0.9～1.4	100.7	101.1	101.8	101.2		
			002	0.8～1.1	0.7～1.4	0.8～1.4	99.1	98.6	99.3	99.0		
			003	0.8～1.2	0.7～1.3	0.9～1.3	100.7	99.8	100.2	100.2		
		1 箇月	001	0.8～1.1	0.9～1.3	0.7～1.3	101.3	101.5	100.7	101.2		
			002	0.7～1.3	0.8～1.2	0.8～1.2	99.3	99.0	98.6	99.0		
			003	0.6～1.3	0.7～1.4	0.8～1.5	100.2	99.7	99.9	99.9		

TLCによる分解物の検索

[illegible]

保存条件	包装	保存期間	ロット	性状	硬度	定量 (%)	溶出 (%)
室温		製造時	608	白色割線有の素錠	3.3～3.9	97.0	94.0～96.2
			610	同上	3.0	101.3	91.3～97.1
			611	同上	3.0	100.1	94.4～97.2
	P T P	3 年	608	同上	3.7～4.0	99.4	93.0～95.5
			610	同上	3.0	99.9	91.4～93.3
			611	同上	3.0	102.5	92.4～95.3
	バラ	3 年	608	同上	3.3～3.6	98.5	91.2～94.0
			610	同上	3.0	98.3	91.1～92.3
			611	同上	3.0	99.1	91.5～94.4

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当資料なし

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

7. 溶出性

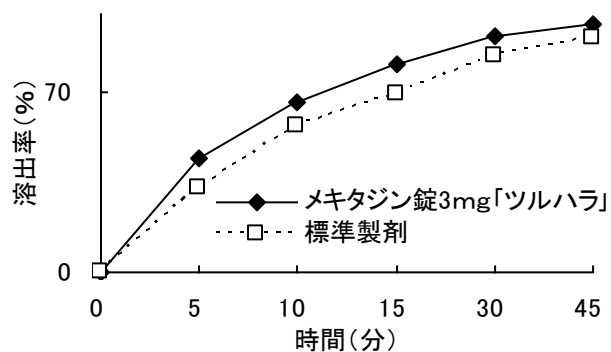
メキタジン錠 3mg「ツルハラ」の溶出は、日本薬局方医薬品各条に定められたメキタジン錠の溶出規格に適合していることが確認されている。(オレンジブック No.26 掲載)

試験方法：溶出試験法第2法（パドル法）

回 転 数：毎分50回転

試 験 液：p H6.8 の溶出試験第2液

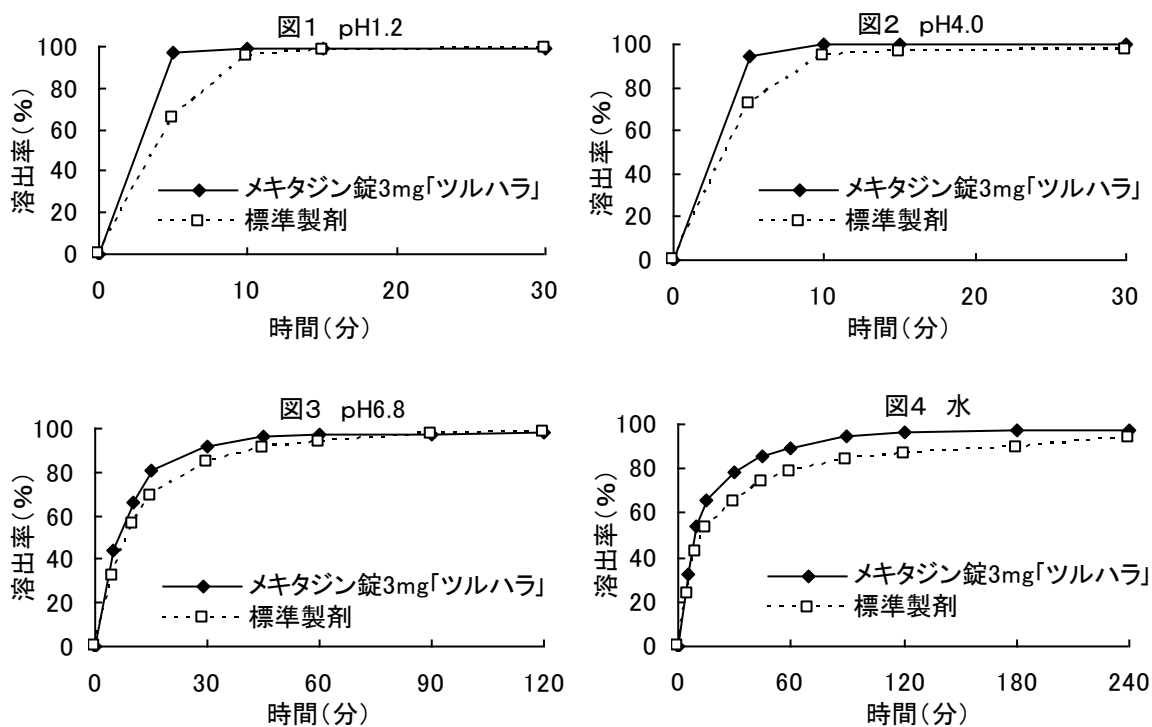
溶出規格：45分 70%以上



メキタジン錠 3mg「ツルハラ」につき、標準製剤を対照として、下記に示す4種試験液を用いて溶出試験を実施した。

試験結果

標準製剤を対照としたメキタジン錠 3mg「ツルハラ」の溶出試験結果を下図にそれぞれ示す。メキタジン錠 3mg「ツルハラ」の溶出パターンは、標準製剤と同等であった。²⁾



8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

- (1)ニクロム酸カリウム試液による呈色反応
- (2)紫外可視吸光度測定法
- (3)薄層クロマトグラフィー

10. 製剤中の有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

該当資料なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、じん麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒（湿疹・皮膚炎、皮膚瘙痒症）

2. 用法及び用量

気管支喘息の場合

通常成人 1 回 2 錠（メキタジンとして 6mg）を 1 日 2 回経口投与する。

なお、年齢、症状に応じ適宜増減する。

アレルギー性鼻炎、じん麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒（湿疹・皮膚炎、皮膚瘙痒症）の場合

通常成人 1 回 1 錠（メキタジンとして 3mg）を 1 日 2 回経口投与する。

なお、年齢、症状に応じ適宜増減する。

3. 臨床成績

(1)臨床データパッケージ

該当資料なし

(2)臨床効果

該当資料なし

(3)臨床薬理試験

該当資料なし

(4)探索的試験

該当資料なし

(5)検証的試験

1)無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2)比較試験

該当資料なし

3)安全性試験

該当資料なし

4)患者・病態別試験

該当資料なし

(6)治療的使用

1)使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群

エバスチン、エピナスチン塩酸塩、セチリジン塩酸塩等

2. 薬理作用

(1)作用部位・作用機序

メキタジンはヒスタミンH₁受容体においてヒスタミンと競合的拮抗作用を有する。*in vitro*でヒスタミン、アセチルコリン、セロトニンあるいはブラジキニンの作用に拮抗し、マウスのヒスタミン致死に対して防禦効果を示す。これらの作用の強さはフマル酸クレマスチンとほぼ同等であるが、その作用時間は長い。また、マウスで中枢に対する作用はジフェンヒドラミンやケトチフェンより弱いことが認められている。¹⁾

(2)薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3)作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

メキタジン錠 3mg 「ツルハラ」と標準製剤との生物学的同等性を検討するため、両製剤投与後の血漿中メキタジン濃度推移を比較した。²⁾

1. 実験方法

(1) 使用薬剤

メキタジン錠 3mg 「ツルハラ」

標準製剤

(2) 対象

あらかじめ健康診断を実施し、異常の認められなかった成人男子 12 名

(3) 投与量

製剤試験により同等と認められた両製剤各 5 錠* (メキタジン 15mg) を経口投与した。(*1 回 5 錠投与は承認外の用法・用量)

(4) 投与方法

健康成人男子志願者で事前に文書による同意を得られた 12 名を 2 群に分け、医師の問診の後、1 群にはメキタジン錠 3mg 「ツルハラ」、他群には標準製剤を空腹時経口投与した。

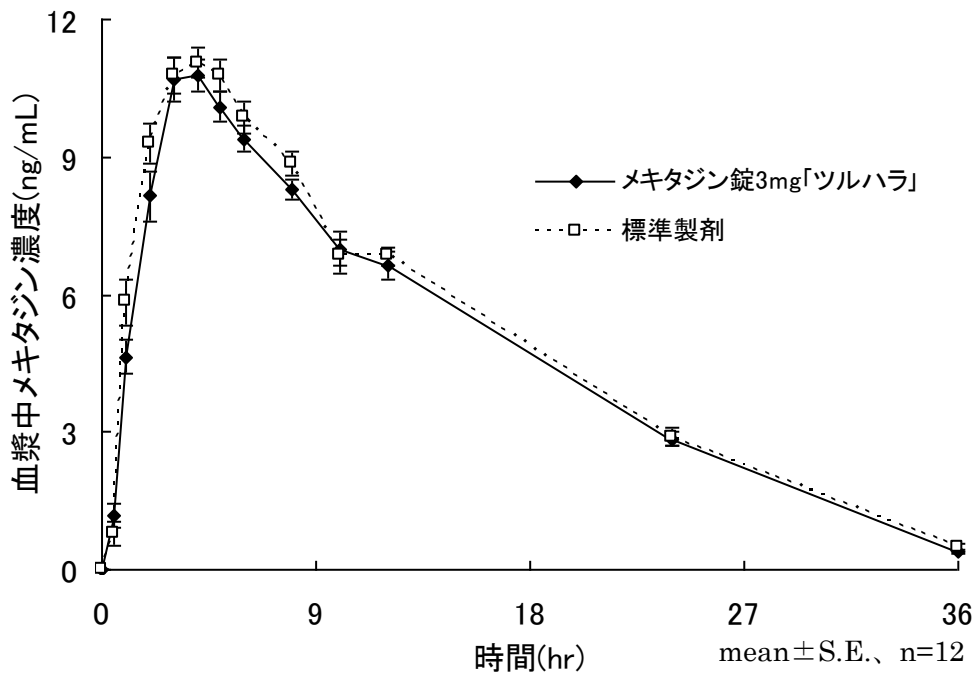
(5) 採血時間

投与前、0.5 時間、1 時間、2 時間、3 時間、4 時間、5 時間、6 時間、8 時間、10 時間、12 時間、24 時間、36 時間目

2. 結果

血漿中メキタジン濃度は、投与後 3～5 時間目に最高血漿中濃度 (9.3～13.7ng/mL) に達し、緩やかに減少した。得られた薬物動態パラメータ (AUC、C_{max}) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

血漿中メキタジン濃度推移



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₃₆ (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
メキタジン錠 3mg 「ツルハラ」	171.3 ± 5.4	11.3 ± 0.3	3.7 ± 0.2	11.0 ± 0.8
標準製剤 (錠剤、3mg)	178.2 ± 5.5	11.6 ± 0.3	3.7 ± 0.2	10.6 ± 0.7

(mean ± S.E., n=12)

血漿中濃度並びに AUC、C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4)中毒域

該当資料なし

(5)食事・併用薬の影響

(「Ⅷ. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 7.相互作用」の項を参照のこと)

(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1)解析方法

該当資料なし

(2)吸収速度定数

該当資料なし

(3)バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4)消失速度定数

該当資料なし

(5)クリアランス

該当資料なし

(6)分布容積

該当資料なし

(7)血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1)血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2)血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3)乳汁への移行性

該当資料なし

(4)髄液への移行性

該当資料なし

(5)その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1)代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2)代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種

該当資料なし

(3)初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4)代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5)活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1)排泄部位及び経路

該当資料なし

(2)排泄率

該当資料なし

(3)排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 本剤の成分、フェノチアジン系化合物及びその類似化合物に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕
- (3) 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者〔抗コリン作用により排尿困難等を起こすことがある。〕

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 腎障害のある患者〔長期投与例で臨床検査値異常として BUN 上昇がみられることがある。〕
- 2) 開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕
- 3) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械操作には従事させないよう十分注意すること。

7. 相互作用

(1)併用禁忌とその理由

該当項目なし

(2)併用注意とその理由

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 (バルビツール酸誘導体、麻酔剤、麻薬性鎮痛剤、鎮静剤、精神安定剤等) フェノバルビタール等	眠気等があらわれることがあるので、減量するなど注意すること。	本剤の中枢神経抑制作用により、作用が増強されることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン作用を有する薬剤（三環系抗うつ剤、MAO阻害剤等） イミプラミン塩酸塩、ブチルスコポラミン臭化物等	口渇、排尿困難等があらわれることがあるので、減量するなど注意すること。	本剤の抗コリン作用により、作用が増強されることがある。
メトキサレン	光線過敏症を起こすおそれがある。	これらの薬剤は光線感受性を高める作用を有する。
アルコール	眠気等があらわれることがあるので、アルコール含有清涼飲料水等の摂取に注意すること。	本剤の中枢神経抑制作用により、作用が増強されることがある。

8. 副作用

(1)副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2)重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明）

1. ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、咽頭浮腫、蕁麻疹、嘔気等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P等の上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがある。また、劇症肝炎の報告がある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。
3. 血小板減少：血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

(3)その他の副作用

	頻 度 不 明
過敏症 ^{注1)}	発疹、光線過敏症
肝 臓 ^{注2)}	AST(GOT)の上昇、ALT(GPT)の上昇、黄疸
血 液 ^{注1)}	血小板減少
精神神経系	眠気、倦怠感、ふらふら感、頭痛、めまい、興奮
消 化 器	口渇、胃部不快感、下痢、便秘、食欲不振、嘔吐、胃痛、腹痛
循 環 器	胸部苦悶感、心悸亢進
泌 尿 器	排尿困難
そ の 他	咽頭痛、浮腫、顔面潮紅、視調節障害、月経異常、味覚異常、口内しびれ感

注1) 発現した場合には投与を中止すること。

注2) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(4)項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

高齢者では副作用があらわれやすいので、注意すること。臨床試験において高齢者に口渇等の副作用の発現率が高い傾向が認められている。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- 2) 授乳婦に投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない。)

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当項目なし

13. 過量投与

徴候・症状：誤って過量服用したときに眠気、悪心、嘔吐、軽度の抗コリン作用性障害がみられる。
処置：通常、早期には催吐、胃洗浄を行う。必要に応じ補助呼吸又は人工呼吸、抗痙攣剤を投与する。

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

動物実験(ラット)でメラニンに対する親和性が認められている。また、他のフェノチアジン系化合物の長期投与又は大量投与により角膜・水晶体の混濁、網膜・角膜の色素沈着が報告されているので注意すること。

16. その他

該当項目なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1)薬効薬理試験(「VI.薬効薬理に関する項目」参照)

該当資料なし

(2)副次的薬理試験

該当資料なし

(3)安全性薬理試験

該当資料なし

(4)その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1)単回投与毒性試験

該当資料なし

(2)反復投与毒性試験

該当資料なし

(3)生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4)その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：該当しない

有効成分：劇薬

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3 年（安定性試験に基づく）

3. 貯法・保存条件

気密容器に入れ、遮光・室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1)薬局での取り扱い上の留意点について

（「規制区分」及び「貯法・保存条件」の項を参照のこと）

(2)薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目 14.適用上の注意」の項を参照のこと）

(3)調剤時の留意点について

5. 承認条件等

なし

6. 包装

100 錠（PTP）、1000 錠（PTP）、1200 錠（バラ）

7. 容器の材質

P T P 包装：塩化ビニルフィルム、アルミニウム箔、セロニウム袋、紙箱

バラ包装：セロニウム袋、ブリキ缶

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ゼスラン錠 3 mg/小児用シロップ 0.03%/小児用細粒 0.6%

ニポラジン錠 3 mg/小児用シロップ 0.03%/小児用細粒 0.6%

同効薬：エバスチン、エピナスチン塩酸塩、セチリジン塩酸塩等

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造承認年月日：2008 年 2 月 28 日

承認番号：22000AMX00226000

11. 薬価基準収載年月日

2008 年 6 月 20 日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

1995 年 2 月 15 日：気管支喘息の「効能又は効果」「用法及び用量」の追加

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投与期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT（9桁） 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
メキタジン錠 3mg「ツルハラ」	109336001	4413004F1014	620007115

17. 診療報酬上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) Tasaka, K. et al. : 応用薬理, 37 (6) 509 (1989)
- 2) 鶴原製薬社内資料

2. その他の参考文献

第 17 改正 日本薬局方

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

X III. 備考

その他の関連資料

なし



製造販売元

鶴原製薬株式会社

大阪府池田市豊島北1丁目16番1号

文献請求先：鶴原製薬（株）医薬情報部